

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		多機能型事業所シンフォニー（児童発達支援）				公表日	令和8年3月10日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		安全確保のため動線を確保し、見守りしやすい配置にしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		看護・保育・支援の専門性を活かし、複数の視点で支援ができる体制を取っている。	今後の利用増加を見据え、継続的な人材確保と育成を進めていく必要がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		スケジュール掲示や視覚支援ツールを活用し、見通しを持って過ごせるよう配慮している。	設備面のさらなるバリアフリー化について、段階的に見直しを進めていく必要がある。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		換気や温度管理を行い、体調面にも配慮した空間づくりをしている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		こどもの状態に応じて職員が判断し、無理なく過ごせる場の選択ができるようにしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		定期的な職員会議や振り返りの場を設け、支援内容や業務の見直しを行っている。	業務多忙時に振り返りの時間確保が難しくなる場合があるため、時間管理の工夫が必要である。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		面談や連絡帳等を通して、日常的にも保護者の声を受け取れる体制を整えている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		立場に関係なく意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。	経験年数による発言のしやすさの差が出ないよう、働きかけを継続していく	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>		外部講師から評価を受けれるように努めている。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	<input type="radio"/>		日常のカンファレンスも学びの場とし、支援力向上を図っている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		実施後の振り返りを行い、プログラムの見直しにつなげている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		保護者面談を通して家庭での様子や思いを丁寧に聞き取り、計画作成に反映している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		児童発達支援管理責任者を中心に、支援に関わる職員が参加するケース会議を実施している。	多職種の専門性をより活かした意見交換の充実を図っていく。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		日々の支援記録をもとに計画との関連を確認しながら支援を行っている。	計画をより活かせるよう、振り返りの機会の充実を図っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		状況を見直し、変化に応じた支援につなげている。	職員間での理解の統一を図る必要がある。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		保護者面談を通して家庭での困りごとや希望を把握し、家族支援につなげている。	記録や共有方法を整理し、継続的な支援体制の強化を図っていく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		職員それぞれの専門性や得意分野を活かした活動設定を行っている。	活動内容の記録と振り返りの仕組みを充実させていく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	<input type="radio"/>		季節や行事、こどもの興味関心に応じて活動内容を見直している。		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		日々の様子を踏まえ、活動形態を柔軟に調整している。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		急な変更があった場合も、随時情報共有を行い対応している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		こどもの様子や変化、成功した関わり等を共有し、次の支援に活かしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		振り返りを行い、支援方法の見直しにつなげている。	
	23	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		モニタリング結果は職員間で共有し、支援の統一を図っている。	支援が現場でより確実に反映される仕組みづくりを強化していく。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		保護者の思いや家庭での様子も踏まえた情報共有を心がけている。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		職員間で共有し、日々の支援に活かしている。	計画的に行えるよう、継続的な体制づくりを進めていく。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者の意向を尊重しながら、関係機関との連携を進めている。	関係機関との相互理解を深める機会の充実を図っていく。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		関係機関との連携内容は事業所内でも共有し、継続支援に活かしている。	連携内容の記録整理を進め、継続的な支援につなげていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		支援に悩むケースについて、専門的な視点から助言を得られる体制を整えている。	助言内容の記録や共有方法を整理し、支援へより反映できる体制づくりが課題である。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		こどもの特性に応じた交流方法の工夫が課題である。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		保護者が相談しやすい雰囲気づくりに努めている	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者が安心して相談できる関係づくりを大切にしている。	家庭での実践につながる具体的な情報提供をより充実させていく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		利用開始時に運営規程や支援内容、利用者負担について説明の機会を設けている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		支援計画作成前に保護者面談を行い、家庭での様子や思いを確認している。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		児童発達支援計画を提示しながら、支援目標や内容について丁寧に説明している。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		日常的なやり取りの中でも、相談しやすい関係づくりを心がけている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		参加しやすい開催方法や周知方法の工夫が課題である。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談内容に応じて速やかに対応し、必要な支援や説明を行っている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		必要に応じて掲示物や資料を通して連絡事項を伝えている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報の管理方法について職員へ周知し、適切な取扱いを行っている	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		安心して意思表示できる雰囲気づくりを大切にしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		地域住民とのつながりを広げる取り組みの工夫が課題である
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		定期的に避難訓練や緊急時を想定した訓練を実施している。	訓練内容の充実を図り、より実践的な対応力向上を目指していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		避難訓練を実施し、職員の対応力向上を図っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		てんかん発作等の対応が必要な場合は、対応方法を職員間で共有している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者との連携を密にし、状況の変化があった場合も情報共有している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		事故やヒヤリハットの共有を通して再発防止に取り組んでいる。	職員全体への周知の均一化をさらに進めていく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		日々の支援に活かせるよう、具体的な改善策を共有している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止に関する研修を実施し、職員の意識向上を図っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		職員研修を通して、身体拘束に関する理解と適切な対応の確認を行っている。		